

## 日浦地区タウンミーティング

平成23年11月22日(火曜)

【市長】 皆さんこんばんは、野志でございます。皆さん平日ですので、お仕事もあると思います。また平日の夜ですから、大変お疲れのところもあるかと思いますが、このようにたくさん集まっていただきましてありがとうございます。このタウンミーティングの開催にご協力をいただきました区長会の橋本会長さんをはじめ、役員の皆様方にはご協力をいただき本当にありがとうございます。さて、私市長という立場に立たせていただいて、11月28日が昨年の選挙でしたか、まもなく1年になります。このタウンミーティングはですね、私の公約の最初に挙げていたことございまして、今年の1月の五明を皮切りに順次やってまいりまして、今回で13番目ということになります。各地区ごとに開催をしているんですけども、松山市内で各地区、何地区あるかと言いますと、公民館本館が置かれているところという形になりますけども、41地区あります。その41地区に公民館本館が置かれているわけですけども、ごろ合わせでいきますと41、「よい」になりますよね。それぞれよい地区が集まって、「よい」をひっくり返すと不思議なことに「伊予」になりますね。よい地区がぐっと41地区集まって伊予を形成していると覚えていただくと幸いであります。このそれぞれの地区がですね、より一層輝いていただけたら、その集合体であります松山市はなお一層輝くということが言えるかと思えます。各地区に市役所の、私もそうですし市役所の部長課長たちがですね出向かせていただいて、各地区の魅力をお聞かせいただく、そして課題を聞かせていただくのがこの松山市版のタウンミーティングであります。これはちょっと職員には面倒な仕事なんですね。なぜかと言いますと、市役所の中で椅子に座って皆さんが来るのを待っていると楽ですよ。それではいけないと、私は皆さんと一緒に各地区に出向いていきましょう、そして地区の魅力を聞かせていただきましょう、そして課題を聞かせていただきましょう。そしてもう一つが、やりっぱなしにはしません、聞きっぱなしにはしませんよって言っております。これをある意味そこでは聞いたふり、やったふりをすると楽ですよ。でもそれやりっぱなし、聞きっぱなしにはしません。例えばここで答えられることはできるだけお答えをして帰りますけれど、例えば国とかかわるもの、

県とかかわるもの、また財政的な問題があるものはたちまちここですぐにお答えすることができないものもあります。それについてはですね、だいたい1カ月をめどに各地区にお返しすることになっております。1カ月かかるんかって思われるかもしれませんが。それは例えば国や県とかかわるものでしたら、国に問い合わせをする、国から返答がある、じゃあ市役所としてどうしようかというようなことを考えますので、目安として1カ月かかってしまいますが、できるだけ早くでもそのようになってしまいます。必ずですね、お返事はするという、聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないというのをモットーにしておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

魅力と申しあげました。まとめてお話を申しますと、なぜ魅力なのか。41地区と申しあげましたけども、それぞれの地区に歴史がありますし特徴がありますよね。その魅力、特徴、歴史を一番よく知っているのは、それぞれの地区にお住まいの方々ですよね。その魅力を活かしたまちづくりをしていただくことが大事だと思っております。いやいやうちのまちはたいしたことないわいって、ついつい同じまちに長いこと住んでらっしゃる方はこう言いますけども、そうじゃない、必ずその地区には魅力があります。私も前の仕事で市内各地、県内各地行かしていただきましたけども、例えば日浦だったら、川施餓鬼だったり、お杖椿だったり、たけのこだったり、棚田だったり、彼岸花だったり、いろんな魅力があると思います。これは後で皆さんに語っていただこうと思っておりますけど、私と共通認識なのか、いや私の知らないものがまた出てくるのか、やはり、魅力をちゃんととらえてまちづくりをすることが大事だと思っておりますので、まず魅力について語っていただこうと思っております。

さて、この地区でもですね、日浦小学校があります、中学校があります。そして水源でありますので水源を守るための施策、農業振興、そして鳥獣害の対策などにも取り組んでおります。本当に市役所の仕事っていうのは幅広いものなんですけれど、そのために今日は部長課長たちを連れてきておりますので自己紹介をいたします。

**【市民部長】** 皆さんこんばんは。このタウンミーティングの統括をしております、市民部長の三好龍彦と申します。所管の業務といたしましては、窓口サービス、支所、市民課、パスポートセンター、消費生活センター、こういった窓口サ

ービスのほかに、人権啓発、まちづくり、男女共同参画、本当に市民生活のまさに皆さんと直に会う業務をやっております。本日はよろしく願いいたします。

【企画政策課長】 皆さんこんばんは。企画政策課長の大野と申します。所管する業務といたしましては、松山市全体の計画、松山市総合計画というのを作っております。そのほか、各組織間の調整であったり、スポーツ振興、こういったところを主にやっております。本日はよろしく願いいたします。

【水資源担当部長付推進監】 皆様こんばんは。水資源担当部長付推進監の門田と申します。この地区の皆様には、国と一緒に進めております石手川ダム水源地域ビジョンに日ごろからご協力をいただき厚くお礼申し上げます。私ども水資源担当部というのは、節水型都市づくりを進める中で、節水、また雨水の利用など水の有効利用、基金を使った水源涵養林保全、そういったことをしております。それでもまだ足りない分について、他市にお願いしておりますけれど、別の水源を確保すると、こういった4つの柱で仕事をしております。よろしく願いいたします。

【保健福祉政策課長】 皆さんこんばんは。保健福祉部全般を担当しております政策課の大濱でございます。本日はよろしく願いいたします。

【産業政策課長】 こんばんは。産業経済部産業政策課の中西と言います。産業経済部は身近な問題になっております農業、林業の事業をはじめ、地域経済、雇用、それから観光の振興ですね、こういった部門の事業をやっております。どうぞよろしく願いいたします。

【生涯学習政策課長】 皆さんこんばんは。教育委員会生涯学習政策課長の青木と申します。教育委員会では、学校教育とか、あるいは公民館とかの社会教育、保健体育など分野を担当しております。よろしく願いいたします。

【市長】 はい、今日は私と6名でございます。今日が13番目のタウンミーティングだと申し上げたんですけど、指折りちょっと硬い雰囲気になってますね。皆さん、ざっくんばらんに、肩ひじ張らずに、肩ひじ張ると疲れてしまいますから。だいたい笑いというか笑顔も出ながらっていう、これまで12回タウンミーティングになっておりますので、あまり肩ひじ張ることはないかと思えます。今日取材の方も来られますけども、おそらく私がもうすぐ就任1年を迎えますものですから、これまでタウンミーティング1社さんがずっと来られてたんですけれ

ど、今日はぐっと増えたなっていう印象なんですけれど、こういうふうに使われるんだろうなっていうのを感じていただくのもいいんじゃないかなと思います。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

【司会】 それでは最初のテーマ、日浦地区の魅力についてお話しいただきたいと思ひます。どなたかございませんでしょうか。

【男性】 地域の魅力ですけども、松山市民の水がめ、石手川ダムの水源地ということで豊かな自然があふれております。緑、緑の田植えの時期、また初夏には日浦小中学生が保護活動しておりますホタルの乱舞が川のいろいろなところで見られます。秋の稲刈りの時期には、真っ赤に燃え立つ曼珠沙華の花が棚田を美しく染めております。地区ではこの彼岸花を題材にしまして毎年写真コンテストを実施しております。この入賞者には副賞として日浦産のおいしいお米をプレゼントしております。それから、地域には市の指定の天然記念物もあります。これ私覚えてきたんですけども、あの方もおられると思ひますので省略させていただきます、伝統行事としては市長も言っておられましたけども、毎年8月15日に行われる、大幟を立てて川を勇壮に練り歩く川施餓鬼や、また福見川町の神社の境内で行われます提婆踊りは独特な雰囲気があります。市長さんも機会があればどうか見に来ていただきたいと思ひます。

【市長】 提婆踊りは私、すみません見たことないですね。

【男性】 自然や伝統行事はもちろんのことですが、この地域は住民がみんなが顔見知りということで、助け合ひの精神が生きております。コミュニティが息づいている魅力ある地域だと思ひます。以上です。

【司会】 ありがとうございます。自然の豊かさ、そして伝統行事、皆さんの繋がり強さということをご紹介いただきました。それではほかにご発言ございませんでしょうか。

【男性】 日浦地区には山林がたくさんあります。そしてまた松山市の水源地涵養林もたくさんあります。この森林を利用してできれば森林公園を作っていただいたらいいなという感じを持っております。山間部でなかなか森林公園するのは難しいと思ひますけど、市当局のご配慮もいただき、できれば涵養林とともに市民が遊べる、森林浴ができるそういう公園ができたらいいな、というふうに感じております。ぜひ、山がたくさんありますので実現していただいたらと思ひます。

以上です。

【男性】 私は19年前に農家を買って求めて和気海の近くにいたんですけど、それを売ってこちらに来ました。一番最初にここですって言われて、もうすぐ気に入って買ってしまったんですけども、本当にこの地区は素晴らしい場所だと思っています。市内にいつも行って帰って来ますけれども、奥道後から上のこの空気のよさ、そしてこの福見川、日浦全体が本当に森に囲まれて、魅力あふれます。一番最初の方が言われたようにお杖椿や、三本杉は言っただけじゃなかったですけども、有名な三本杉、それからアカガシの木と竹細工やいろんなことをされてますけれども、本当にもっともっと市が、この日浦全体を宣伝していただきたいという思いがあります。最近俳句を詠む人たちもたくさん、三本杉なんかにもあがって俳句を詠んでおられますけれども、もっともっと市長はじめ皆さんがこの素晴らしい空気のところへ来ていただきたいし、マイナスイオンあふれる場所です。もっともっとそれを宣伝していただきたいと。私は19年ここに住んで、一つも嫌になりません。もう私が一人になってもここで住んでうちの家に言ってますけれども、本当に魅力あふれる場所です。そのことを市内に行ったときには宣伝しておりますけれども、ぜひ市も観光地の一部にしていきたいと思えます。三本杉のところに行かれたら市長行って見られたらわかりますけれども、本当に三本の杉のパワーっていうかそれはすごいです。そして私は19年前に来て初めてあそこへ上がって行ったんですけども、一本の枝が落ちてましたけれどもその枝を持って、この枝ほども自分は生きれないんだな、この杉はすごいなと思って、ものすごいパワーを感じてます。うちの孫がその三本杉に耳を当てていたので、どんなに言ってるって言ったら、よく来たねって言ったと言ってですね、孫が喜んでましたけれども本当に素晴らしいところです。もういまだに飽きません。もう喜んでおります。そういうところを宣伝していただきたいと思えます。

【市長】 今、三本杉と言われて記憶がよみがえってきたんですけど、確か神社があって神社からちょっと上がって行ったところがありましたよね。思い出しました。立派な杉でした。思い出しました。それと、日浦と言えば緑の少年団の活動も立派だなというのも言わないとと思ってたんですけどもごめんなさい、あいさつのときに抜けてました。みんなの生活展が秋に大街道であるんですけど、

毎年お会いするので立派な活動してるなと思ってました。そして顔見知り、助け合いのお話がありましたけど、これものすごく大事なことで3月11日に東日本大震災が起きました。やっぱりいざというときにはやっぱり助け合いの精神なんですよね。街中ではマンションが多くて、隣は何をする人ぞみたいな雰囲気になってる中で、顔見知り、助け合いってあるっていうのは素晴らしいことだと思いますのでこれ本当にまさしく日浦の魅力だと思います。大事にしていきたいと思います。森林公園の話が出ましたけれども、三本杉のことも含めてですね、久万高原町に上がっていくところ右側に天皇陛下がお越しになってという公園も、森林公園ですかね。それからまた伊予市のほうにも森林公園あるかと思えますけれども、そういう現状の把握から、またさせていただいたらと思います。はい、ありがとうございます。

【男性】 日浦地区、先ほどから言われているように、石手川ダムの上流にあるってことで水源の里としての豊かな自然がいっぱいだと思います。ただその自然を守るっていうことに関しては里山、いろんな形でのその残し方があるかなと思うんですが、この地区も例外ではなく、若者はだんだん減ってきています。少子高齢化そういった波の中で、限界集落の危機感を感じながら、地域づくりを考えていかなくてはいけないのかなと思ってます。皆さんも国道走っていただいたらわかるように、以前はきっと畑であったり田んぼであったりそういった森林も手入れされていた部分がだんだんと若者が減り、高齢化を迎える中で荒れてきているのが現状じゃないかなと思ってます。このまま何もせずに放置していればだんだん魅力が少なくなってくる。そういった中で地域づくりっていうことで、今年8月ですけれども、この地区の魅力の一つであるホタルに関して日浦地区ホタルの保存会というものを設立しました。やはりホタルに関してはこの地域の魅力であるってことを踏まえて、ホタルの保存活動をしながらこの里山をまたいろんな形のコミュニティをつくりながら展開できたらいんじゃないかなっていうことで今活動を少しずつしております。日浦中学校のホタル小屋も借りながら、幼虫を今育てていると言いますか、見守っているという状況です。そういった中で中学校では、ホタル観賞会とか毎年されているわけですけど、私も今年参加させてもらってちょっと思ったのはやはり夜暗い。小学生も参加しながらホタルの観察会、鑑賞会をするにあたってはやはり非常に危険な場所と言うんですか、

慣れている者であれば気を付けながら歩いてホタルの鑑賞可能なんですけども、本当にホタルが乱舞するとき、市内からも多くの方がホタルを見に来られるというのをよく見ます。本当にいいところを見れずに帰られるっていうのは非常にもったいないと感じてますので、子どもたちもまたお年寄りの皆さんも自然の癒しっていうんですか、そういったものを見守って育てていく、またそれが一つは水源の日浦地区ならでは一つの大きな役割なのかなと考えてます。そういった中でやはりホタルの遊歩道って言いますか、そういったものも整備いただくことがお願いできないだろうかということと、この日浦地区の自然を市内の方に見てもらい、楽しんでいただく、そういった中で国道等道路清掃もやらしていただいではおるんですが、道路のちょっと横に行くと本当にごみが落ちていてというのがありますので、自然に触れ合う機会っていうんですか、自然を鑑賞できる、先ほどから自然公園とかありますけれども、水源涵養林、そういった部分をただ単に遠くから見るだけではなくて、実際にそこを歩いて自然、森林浴もその一つではありますけれども、紅葉であるとか、木々の実りとか花を見てもらいながら、肌で触れていただく遊歩道みたいなものが整備いただくと、もっと自然を大切にさせていただく機会になるんじゃないかなということで予算とかまた国とか県との関係もありますから、すぐっていうのは難しいかもしれないんですが、ぜひ実現の道筋をつけていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いします。

【市長】 これについては、何らかできるんじゃないかなと思います。何らかという言い方で申し訳ないんですが、先ほど推進監からありましたように水源地域ビジョンっていうのが国土交通省でやってるんですね。ちょっと資料持ってきたんですけども、聞いてもらったらと思います。「水源地域ビジョンはダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図り、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的として、ダム水源地域の自治体、住民などがダム事業者、管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体、住民や関係行政機関に参加を呼び掛けながら策定する水源地域活性化のための行動計画です。国土交通本省においてはダム事業を所管する河川局、水源地域対策を所管する水資源部、公園の整備などを所管する都市地域整備局（公園緑地課）が連携して支援を行います。」という文章があって水源地域ビジョンっていうのはあります。ですので、ホタルの保存活動とか、里山づくりに対する支援はこの枠組みの中で検

討ができるんじゃないかなと思います。

【水資源担当部長付推進監】 石手川水源地域ビジョンの中で検討していきたい  
と思いますので調査について、今度地域部会、環境部会もございますのでまた打  
ち合わせをさせていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

【市民部長】 遊歩道の整備っていうご提案ございましたけれども、どういう規  
模のものかわからないんですぐにお答えできませんけど、例えば桑原地区に淡路  
ヶ峠っていう山あります。そこはまちづくり協議会の人たちが道普請をして道  
つくってるんですけども、我々だけじゃだめなんでもう少し子どもとかお年寄  
りが登れるような形で何とかできんかってことで、実は行政と連携というか協働  
して、今考えているところです。こういうアプローチの仕方もありますので、も  
し地元と行政と一緒にこういうことができんのかなという意見がまとまるよう  
でしたらぜひ我々もそういう活動に参加させていただく仕組みあると思いますの  
でぜひご提案いただけたらと思います。

【男性】 どういうふうに提案すれば。

【市民部長】 まず、まちづくり協議会ができた場合については市民参画まちづ  
くり課がすべて窓口になりますので、ご相談いただけたらと思います。

【男性】 できない場合は。

【市長】 はい、水資源担当部に相談していただけたらと思います。

【男性】 日浦地域は山林が90パーセント以上という地域でございます。今は  
竹の改築と改良ということでだいぶ国道からも見える状態にさせていただいており  
ます。非常にお世話になっております。来年からまた国の事業が変わっていくと  
いうようなことをお聞きしております。その中でこれからは搬出間伐じゃないと  
補助金が出ないということをおかれておりますので、これを松山市のほうでここ  
の上流等において切り捨て間伐もできる状態を拡大していただきたいと、国の  
できんところを補充していただけたらという点が一点と、ほかの地域では大体国土  
調査も済んでおりますが、高縄山を越えてこちらへまわっておる北条分におい  
ては国土調査も済んでおります。しかし松山市分はひとつも済んでいないのが現状  
でございます。これを何とかこの日浦校区、地域、ダム上流にだけにおいても、  
限界集落等に近づいておりますし、後継者が山を十分に知らないという状態に陥  
ってきよりますので、行政ともに今の早いうちにそういう方向が試験的にでも

きないかという点をお願いをしたいと思います。

【市長】　そうですね。大きく2点ありまして搬出間伐じゃないと補助できないということと地籍調査についてですね。間伐のほうからいきましょうか。

【産業政策課長】　産業経済部です。搬出間伐についての補助ということですが、この辺のところはまた具体的に国の制度とも検証しながら、また新たに補助制度ということになりますとなかなか予算との。

【男性】　搬出間伐じゃないと今度は国のほうからが補助が出ない。松山市のほうでやっていただければというのは、切り捨て間伐だけでもやれるような。この日浦校区、間伐をして山を整備するいうところを手当てをしていただきたい、搬出間伐は国から出ますんでという形になろうかと思いますが。

【産業政策課長】　国の補助に該当しないものということですが、整備については木を切った後の農道整備とか、逐次やっておりますけれどもそこら辺の補助、支援については具体的に検討をさせていただきたいと思いますので、具体的な話をお聞かせしていただいた上で検討させていただきたいと思います。

【市長】　はい。これについては必ずお答えをいたします。

【市民部長】　国土調査、地籍調査のことお答えさせていただきたいんですけど、山間部においては高齢化等がありまして所有者とか境界とかわかりにくくなつとんで切実な問題がおありだろうと思います。市の実態を申しますと平成15年ぐらいから、地籍調査を始めて、これは主に都市計画の目的で効率的に行う形で調査を始めて、現在の段階では都市計画の目的ということから市街地を優先して行っております。石井地区であるとか、土居田、針田、空港通りとか、そういうところで順を追って行っております。今お申し出の意向は所管課、都市整備部ですけどもお伝えすることとしておりますが基本的には都市計画っていうことでやっておりますので詳細については持ち帰りましてきちんと調べた上でお答えさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

【男性】　私は有害鳥獣のことについてお話をしたいんですけども。私漁協の組合長もしております、市のから放流補助をいただいておりますこと大変感謝しております。できれば補助を重信川と同等にさせていただきたいと。どうして重信川のほうが余分に補助があるのか私も不思議に思っておるんですけども、同等ぐらいにさせていただけたらなと思っております。それから有害鳥獣のことです

けれども、今年松山市鳥獣被害防止対策協議会というのができまして、それにも出席をいたしまして2回目の会合が10月にあったわけですが、有害な獣としてはイノシシと猿だと。そして有害な鳥としてはヒヨドリとカラスだということになっておりますが、そこへ有害な獣にそのシカをひとつ加えてくれんかと言うことで山林の被害大変シカが被害が多いんでありまして、ここの流域の組合長さんとお願ひしたわけでございます。獣のイノシシと猿につきましては前市長にお願ひをいたしまして、平成12年から報償金を出していただいております。また、2、3年遅れで猿にも報償金を出していただいております。それ継続して市長さんも、今は頭数も大変増えて金額も張るかと思ひますけれど出していただいておりますことに大変感謝をいたしております。ありがとうございます。それで鳥のほうなんですけれどもこのヒヨドリは食べてもおいしい、それから焼き鳥なんか売ればお金にもなるということなんです、カラスは食べることもできん。それでなかなか賢い奴で撃つのもなかなか面倒ですけれども、この地区でもカラスの被害が大変多いんでございます。私らも今ごろのとうもろこしを自分で植えて食べようと思うんですけれどももう口に入らんのです、カラスにやられて。カボチャまでつつきます。困った奴なんですけれども、これをなかなか撃ち手がおらない。なかなかカラスは面倒いうことなんです、私松山猟友会の会長しております、みんなが何とか千円ぐらい補助、報奨金出してもらえよう頼んでくれんかと言うんですけど、そういうふうな対策をしてもらいたい。それも協議会でも言ったんですけれどもね。やはり役所の農林水産部長さんが会長ですけれども、上へ向いて予算のいることなかなか言いにくいんじゃないか思うんですけどね。イノシシも4年ぐらいは陳情、農林水産からは陳情あげたんですけれども市長さんまで届かんのですね。ほれで私が市長へ直接談判したらすぐできたんです。市長さんがちょっと部長へアドバイスしてもらったらいと思うんですよ。お前らカラスなんか千円出しても年に200羽300羽駆除したって20万、30万ぐらいな金なんですよね。それぐらいの金出し渋りして駆除ができんだらどうするんぞ、いうぐらいなアドバイスをしていただきたいと思うわけでございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

【市長】 はい、それでは大体皆さんにも知っていただくために今、有害鳥獣対策ってどんなことをしているかをお話したいと思ひます。そうですね、本当中島

に行ったときもそうでしたし、五明に行ったときもそうでしたし、北条に行ったときもそうでしたしタウンミーティングで。有害鳥獣のことはよく話は出てきます。本当に頭の痛いところで、やっぱり1回に産む子どもの数が多いですから、またそれ海を泳いだりできるのもあって、うちの島おらんかったのにイノシシが今年から増えてしもた、とかそういうようなこともありますので農協などとも協力して、いろんなことやってるんですけども、例えば捕まえてもらうのに報奨金出してイノシシは1頭につき2万円。猿は1頭につき3万円を猟友会さんに対して行ってます。昨年度はイノシシ450頭ですから900万円、猿39頭でしたから117万円ということで合計で1千万円超えるんですね、報奨金をお支払いをしております。やっぱりイノシシとか猿とかが多いかっていうのがわかっていたかと思えます。鉄柵、電気柵などの施設整備については昨年度は115万8千円の補助を行ってます。で、どんどんどんどん増えてますので、この柵自体を膨らませましようということで今年度はまず膨らませました。補助の柵ですね。そしてやっぱり狩猟免許持ってる方も多いほうがいいですのでこの狩猟免許を取得する費用、予備講習費と受検料の2分の1を補助させていただくというのが新たにすることにしました。また、箱わなの設置経費についても補助をさせていただく。そして個人だけじゃなくて、鉄柵や電気柵を共同設置した場合にも補助いたしますよ。これだとぐっと広がるかなということでいろんな方策を考えて今やってるところです。先ほど言っていたように松山市鳥獣被害防止対策協議会を立ち上げて、どういうふうにしたらいかなというのでこれからも有効な対策をしていこうと思っております。やっぱり日浦のほうでもシカとかカラスとかひどいですか。シカってどうでしょう。お答えになれる方いますかね。カラスもなんか入ってたと思うんですけどね。すみません、ちょっと。

【男性】 カラスは近隣地帯は皆、報償費出とるんですよ。

【男性】 東温市それから伊予、東予市とかね、皆近隣は出ております。東温市がシカもイノシシと同じ報奨金が出とるはずですよ。

【産業政策課長】 鳥獣被害防止対策協議会に出ておられますのでよくご存知だと思いますし、私が逆にそれを超えてできますというのも立場的には言えないんですが、確かに言われましたように東温市なんかで言いますと松山、猿とイノシシだけですけれども、東温市は先ほど言われましたシカとかカラスとかを確かに

補助対象としておりますし、ヒヨドリについては若干少ないんですけども大洲市とか宇和島、南予のほうやってるところもあります。そこら辺を多少拡大することにつきましては多分担当部長も言われたと思うんですけど予算との兼ね合いもあったりして、それとまた近隣等、あるいは県ともこれから協議をさせていただきながら、今の段階でできるということはご返答できませんけれども、また協議会の中でそこら辺のところをいい方向を協議していただければと思います。

【男性】 また協議会に行ったら市長さんからアドバイスを。

【市長】 ありがとうございます。また協議会の中でも言っていただきたらと思います。どうしても予算のことが関わってまいります。これもう毎回お話ししなければならぬんですけども、国の借金が1千兆円と言われてます。1億人という日本の人口から割り算するとどれだけ一人抱えてるんだろうと思うと、誰かここまで止められなかったのかな、何とかできなかったのかなとよく思うんですけども、国が1千兆円の赤字を抱えているということはみなさんも中学校とか小学校高学年の勉強で出てきたかと思うんですけど国庫支出金とか地方交付税交付金とかそういう形で地方に下りてきてたんですよ、お金が。でも国が1千兆円借金抱えてたら、できるだけ地方にはお金は下ろしたくないでしょうね。そういう中にあるってことは地方の財政は膨らみっこない。なかなか地方にお金が下りてこないだろうって考えないといけないと思います。そういった中でよく申し上げるんですけども、松山市に1年間にお金が入ってくるほうを歳入って言います。お金が出て行くほうを歳出って言うんですけども、その歳出、円グラフを思い浮かべていただいたら一番わかりやすいんですけど、そのうちの一番大きなウェイトを占めているのが40パーセントの民生費というものです。いわゆる福祉にかかるお金。これが40パーセントです。これが前の年と今年の年で50億円増えたんです。そのうちの生活保護費、これも大事なお金ですけども、この生活保護費が20億円増えたんです。全体の懐はこれ以上膨らみっこないのに民生費が50億増えた、生活保護費が20億増えたってことはどっかで何かを削らないとどんどん下り坂になっていってしまうということなんです。で、市長の人気取りで皆さんからいろんな要望があると思います。それは当然だと思うんですけども、その市長の人気取りで「わかりました、それやりましょう、あれやりましょう、これやりましょう」っていうのはすごい楽ですよ。でもそれをやってい

くと松山市の財政は下り坂になるでしょう。これは将来の子どもや孫につけを残すことにほかならないことなんですよね。ですから自分の生まれ育った松山の財政を悪い状態にして出て行く、市長の職を終える、みたいなことは私は絶対にそういうことはできないので。そりゃあ昔の高度経済成長の世の中、税収もどんどん上がっていく、景気も良くなっていく、経済も膨らんでいくっていう世の中だったら、その時の市長はある意味楽だったかもしれないですけども、今残念ながらそういうような日本にはないっていう状況です。ですからどこの首長も苦しい舵取りをしている状況です。その中で選択と集中だと思いますので、何が今やるべきなのかっていう優先順位を付けながら判断していきたいと思っています。でも、これ言うと皆さんがしゅんとなって「金の要る話はもう言わんとこ」って思わないで下さいね。逆に言わないと声は届かないと思いますので、それはあんまり皆さん心配しないで、言っていただいたほうが正しい認識が持てるのでいいかと思っています。言っていただいたほうがいいと思います。言っていただいてもすぐにできないこともあるということもちょっとわかっておいていただくとありがたいです。

【男性】 今の市長さんのご意見お聞きしまして、歳出と歳入の関係で大変なのはわかりますけれどもその中でうまくやっていただけるのが野志市長と感じております。その中でぜひお願いしたいことがあるんですけども、5、6年前までこの水源の保全に関して、ダムの上流ということで上水道も下水道も完備されておられません。その中でし尿処理のくみ取り料の全額負担という形で最初やってもらってました。これが5、6年になりますかね、から2割カットということで、そのいきさつは聞いてないんですけど単に経費の節減だと思います。ですけど結局ここで生活排水から水のことに关しましても河川清掃、みんなが一丸となってダムの上流域ということで協力し水質保全には協力してると思います。せめて最初に企画したとおり2割カットじゃなくて全額みていただくようお願いしたいと思います。また感想聞かせて下さい。

【市長】 これについては担当のほうから。

【企画政策課長】 企画政策課です。この件については企業局のほうから伺ってるんですが、やめたのが平成19年というふうなことでありますけれども、やはりこれについては3年間に渡って平成5年から始めた補助について協議させてい

ただいた中で、地元のご理解をいただく中で8割になったというふうなことは聞いているんですが、これについても財源的になかなか厳しいということがありましてですね、そういうふうになりましてですね、これについてまた10割に戻すというのはなかなか難しいと今考えております。こういうダムの水源を守っていくという中でですね、今この地域のし尿の処理の仕方としてはくみ取りの方式であるとか、あとその単独浄化槽とか合併処理浄化槽っていうのがございます。くみ取り便所と単独浄化槽については生活排水、お風呂とか台所から出る排水っていうのはそのまま川に流れて、単独浄化槽っていうのがその中のし尿の処理をするんですけれども、8割ぐらいは処理はできても残りの2割は出て行くということで単独浄化槽っていうのが一番環境に悪いような状況なんです。ですからそのくみ取り便所から単独処理浄化槽に変えるんでしたらちょっと我慢していただいて、水質を良くしていこうってことで当時始めたというふうなことなんですけれども、なかなかその当時皆さん水洗化したいと思っても、そこのところをご理解いただいてご協力していただいくみ取り便所になってるということで、本当そのおかげで水質を守れたということで本当その件については大変感謝をしております。ですけどその当時単独浄化槽っていうのがあったんですが、今はその単独浄化槽自体が廃止されています。法律の中で禁止されてまして、環境に悪いということで、今は合併処理浄化槽を何とか推進していきたいということで市のほうでは思っております。ですけどもご存知のように合併処理浄化槽っていうのは大きさも結構大きいしということで設置費用もかかる。それから維持管理費用も当然高くなっていく。その代わり水質は一番守れる浄化槽なんですよね。ですから水源にとってはすごくいいんですが、その辺を含めまして今後ですね、合併浄化槽をもし設置するんであれば、その辺の補助っていうのが今の段階では個人負担を当然求めていくような補助になりますので、そこら辺をダムの水源を守っていくということは大変大事なことです。そういうことも踏まえましてですね、合併浄化槽の補助についてその辺のあり方について市の内部の中でちょっとご検討させていただくというふうなことで、そういうことも含めましてですね、くみ取り便所についてはちょっとなかなか10割に戻すということはなかなか難しいんですが、合併処理浄化槽を設置する、水源を守るために合併処理浄化槽を設置するということをちょっと真剣に各部局集めましてですね、考えてみたいと思

ますのでもう少しその辺については時間をいただければとこういうふうに思っております。以上です。

【市長】 私からちょっと今ので一言、これまでも前職のときにも来させていただいてよくよく感じて、やっぱりここは水源の地でありますからやっぱりその役割があると思います。ですのでそのこともよくよく頭に入れながら、今真剣な検討という話がありましたけれども検討させていただいたらと思います。よく検討するって言って検討しないことがあるんですけど、本当に検討しますのでちょっとお待ちいただいたらと思います。

【男性】 歳出増加の話なんでやめようかなとは思いますが、高齢者を代表してお願いがあります。河中出張所には住民票とか謄本、印鑑証明等の証明書をいただく端末機の設置がないんですよ。湯山へ行くか道後へ行くか、市へ行くか私は車を運転できるから簡単に行けるんですけど足のない人はかなり不便をしてると思うんです。聞き及びますところによると泊地区と日浦地区以外はすべて端末機が設置されて証明書がいただけるようになってるというお話を聞いておりますので、1カ月といわんとできましたら早く設置をお願いしたらと思うんですががでございましょうか。

【市民部長】 市民部でございます。この件について事前に質問いただきましたので早速検討いたしました。市長にも気合入れられましたので早速検討いたしまして、今の事情については人口少ない地区は件数が少ないってことで端末置いてなかったもんですから、すぐに端末置くとなると初期費用それから今言ったように費用が毎年、維持管理かかります。しかし、それでできないって言うのではなくて、一つの提案させていただきたいんですけれども、今の状態だったら2回行かなきゃいけない状態になっと思うんです。まず窓口で受け付けて、できましたらまた次の日か次の次の日か来て取りに行くという形になっと思うんですけれども、当日の15時までに手続きをいただきましたらその日のうちに湯山支所から住民票とかを希望する方につきましてはご自宅まで配達させていただくということを今検討させていただいております。それがいつからかってなりますとできれば12月の初めぐらいからできるような形で今体制を整えております。ただ、今までどおり取りに来ると言う方につきましてはそのままでもいいんですが、ご希望される方は湯山から直接ご自宅に届けさせていただこうと

思いますので、もしそれでよければ早速着手させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【市長】 はい、これは、市長から気合いを入れられましたのでって市民部長が言ったんですけど、日頃から言ってるのは私の選挙のときに言ってたキャッチフレーズが“一人でも多くの人を笑顔に”なんですよ。できるだけ親切な親切な対応をして下さいと申してますので、それでもうどうすべきかっていうのはわかってくれてやってくれたんだと思います。言ったら宅配サービスですかね。

【市民部長】 もう一つ、じゃあ街中ではどうかと言いますと、個人情報とかいろいろなところがありますので、やはり信頼関係のある地域ということで我々も思い切ってやらせていただきたいと思います。以上でございます。

【市長】 住民票などの宅配サービスということになりますね。ちょっとお金の話しになると何でその端末が来てなかったかと言うと、やっぱりものを設置すると初期投資がいりますよね。大体回線等設備しようと思うと100万円ぐらい。これは私も入って「あ、そうやな」というふうに思ったんですけど何でもつくただけでは終わらないですよ。毎年その維持管理費がありますよね。例えば30年ぐらい経って古くなったら改築せないかん、改築したとしたらまたずっと永遠に続くわけですよ。ですから初期投資と維持管理費が必ずいるというところがなかなか難しいところであります。維持管理費が年間にするとおよそ120万円。回線の使用料とか機器のレンタル料とかがいりますので、やっぱりそういうところが難しいところです。だからよく、箱もの行政って昔よく言われましたけれどもそういう箱を昔つくっちゃうと、維持管理費がずっと、建て壊さない限りいっちゃうってところがまた難しいところでもあります。先ほども言っていたように難しいからと言って私は投げ出さないんですよ、難しいからチャレンジする。チャレンジしてうまくいったらより一層の皆さんの笑顔があると思うのでチャレンジは続けると思ってます。

【男性】 宅配料が別にかかるというわけではないんですか。

【市民部長】 すみません。手数料はいただきますので、その点はよろしく願いします。

【市長】 宅配サービス分はいらないということですね。

【男性】 市長から財政に絡む話でも大いに結構だということですが、非常にこ

う大きな財政絡みの話なんですけれども、現在中山間地域であり、高齢化率が40パーセントに近い、65歳以上の人。国もそうでしょうが、県も市も各自治体が一番抱えている福祉について。この福祉が一番頭悩ますところなんですけれども、私が一番心配いたしますのは、70歳超えたときにまだ現在運転はできております。自分でこの地域から買い物に出かけたり病院に行ったりすることが果たして可能かどうか、こういった不安抱えています。現在の80歳代とか90歳代の方は昭和20年前後ぐらいから、団塊の世代でかなりのお子さんが生まれておりますから恐らく6人、8人のお子さんもお家のほうたくさんおられたと思います。その方が今70代後半から90代にかけての方だと思うんですけども、ちょうど私たちが団塊の世代ですね。60代ですので果たしてここ10年、15年後になってくるといわゆる足の問題、交通手段の問題であるとか病院の問題、こういったものに非常に不安持っています。河中に診療所があったんですが、この診療所も今現在は廃止になっております。ですから手短な病院に行くのには、末町にある矢野内科まで一番近いところまでここに行くわけですけど、例えば大きな財政絡みになります、いろいろ調査された結果の廃院だったと思うんですけど、これが今後再開できれば一番いいんですけどこれができない場合にこの器をそのまま置いておくのももったいない気がしますね。その器、箱ものをどのように利用したらいいかっていうことで、例えば地域のコミュニティハウスのような形で、お年の方を中心とした趣味や講習会ができるとか、学習教室ができるような、というふうに思います。もしそれが可能という場合には現在の箱ものでは集会持てない状態ですから中をリフォームしなきゃならないだろうし、今後、仮にそうした場合に、地域にかかる負担の割合であるとか維持管理費の状況であるとか、運営していくにはどのような方法をとられるのか、そのようなことも検討した中であそここの建物をそのまま空き家にしておくのもどうかなと思っています。できればあそここの建物を地域の使い勝手のいい集会場みたいなのができたらと思いますけど、そのあたりはちょっと財政が大きく絡みます問題なのでできれば検討お願いしたいと思います。

**【保健福祉政策課長】** 福祉部でございます。この診療所の廃止については平成19年、地元の関係者、あるいは診療所に関わる人たちと協議をさせていただく中で、この日浦について在宅医療サービスが地域の病院、あるいは医院でできる

ということがまず一点。そうした中でこの建物自体が、昭和48年に建築だったと思うんですが、老朽化しておるので今の建物がそのまま診療所としては使えない。こういった観点から廃止を皆様とともに決断をさせていただいた中で先ほど申しましたこの近くの在宅医療サービスについては、先ほど出ました矢野内科をはじめ6つの在宅を可能とする医療機関がございます。そういったところでカバーをしていければという思いでございまして再開については非常に難しいと考えております。建物については市民部と代わりますので。

【市民部長】 今利用していない診療所の跡地についてなんですけど、可能性としてはお貸しできるということはあると思います。例えば五明診療所跡は今現在、五明のまちづくり協議会の事務所として無償でお貸ししております。覚書を作ってですね、運営費用についてはもちろん自分でご負担していただいております。現状申しますと、かなり傷んではおりますけれども、どういう目的、それから運営、維持管理する人がどういう組織というものもございますし、それから他にも使いたいという引き合いがどうもあるようです。それとの優先順位を考えてより公共性の高いものであれば、それはお貸しするという可能性はございます。ただ、内容についてはこれまた詳細ですね、後日でも構いませんのでお尋ねいただきましたらその貸し出しができるかどうかということ具体的に協議できると思います。それから場合によっては一部雨漏りとか老朽化というものございますので、このあたりの費用とか運営とかもその際にあわせて考えていきたいと思っております。ただこの場では具体策がないのでちょっとご容赦いただいて、持ち帰り、あるいは後日協議させていただくことでよろしかったらお願いいたします。

【女性】 今も足の件でお話があったんですけど、このタウンミーティングにすごく興味がありまして、ホームページとかで公開されている内容とかを読まさせていただきました。こちらの地域は今、日浦小中学校がありまして、地元の子どもたちだけでなく市内からいろいろな子どもを集めて、学校を運営していただいておりますけど、そのときに市からバスが出てるんですね。それをタウンミーティングの場で、「日浦地区の方はスクールバスを使えてうらやましい」という内容が出てて、それを否定していただけてなかったもので、何かの機会に皆さんにわかるようにして、地域の方はスクールバスには乗っていないということを広く伝え

てください。今もあるこの自然豊かな地域と、伝統行事とかもPTAの方のご協力があって今は何とか維持ができてますので、教育委員会の方針が、これからも日浦小中学校を今までと同じような形くらいを維持していただくということをやらずと貫いていただけたらなと思います。

【市長】 はい、わかりました。2点あったかと思います。たしか、現場でいや使ってないですよっていう話を、五明のタウンミーティングだったかと思うんですけど、いやそれ使ってないと思いますっていうのは申し上げたと思います、現場で。ホームページには全部の内容までは載ってなかったですかね、現場では否定をしております。安心してください。ああ、ホームページの記載の方法ですね。わかりました、さっそく帰りましてホームページを確認してみます。誤解のないように訂正をいたします。もう一つですけども、今後も小中連携を進めていきたいと思ってます。それにつきましては、私の思いもありまして、中1ギャップという言葉があるんですけども、どういうことかというと、ずっと同じ小学校におったら人間関係築かれるんですよ、でも中学校で、小学校からそのままの中学校上がったらいいですけれどなかなかそうもいかない、そうすると人間関係またゼロから築かなければいかん、それが中1ギャップといわれるものですけども、なじめない、学習も小学校から中学校に上がって速度も速くなるし、難しくなっていくからその学習内容にもついていけなくてなじめない、人間関係なじめない、学習内容にもなじめないということでいじめとか不登校になっていくとか、コミュニケーションができなくなるとかいわゆる中1ギャップというのがあります。小学校6年中学校3年というのありますけど、特に小中連携というのは進めていきたいと思ってます。今7つあるんですけど、一番最初にやったのが日浦小中、興居島小学校中学校、垣生小垣生中、高浜小学校高浜中学校、小野小学校小野中学校、津和地小学校怒和小学校、中島小学校中島中学校、中心部の番町小学校、八坂小学校、東雲小学校、東中学校、こういうふうにできるだけ小学校中学校の連携を深めていきたいと思っていますので、これからも日浦は先駆的な役割をはたしていただきたいと思います。

【男性】 ちょうど学校の件が出ましたのでお願いをさせていただきたいんですが、今市長から日浦の小中連携の話が出ましたが、日浦小中学校というのは小中一貫教育とを現在推進しております。これは9年前に地元の方々が日浦を残そう

と本当に努力していただいて、それを聞きまして本当に感謝しております。これで我々の子どもたちも日浦に通わせていただいているんですが、その頃からずっと日浦は小中一貫教育のパイロット校となっていて、これを小中一貫校にしようと、パイロット校でなくテスト校ではなく、小中一貫校としたいこれを歴代の校長も随分と働きかけ、教育委員会の内部からもそういう声が上がっていると思うんですけど、なかなか実現しない、我々としてはこれは実現していただきたい。実現しない一つの原因は、小学校の敷地と中学校の敷地が離れていることが一つなんです、これは物理的な問題ですが、しかし、一貫教育を始めたのは、東京の品川区が全国で初めてなんですけど、品川区の現状を見ますと中学校が一つあって小学校が3つ4つあるかなり離れている、それを学校の先生が自転車で通ったり単車で通ったり車で通ったりしながら、小中一貫教育がそこでなされているんです。かなり先生しんどいと思いますけど。それから見ましたら物理的な敷地としては離れてはいますけれど、この日浦は条件的には非常に整っているところだと思っています。だからこそ県下で一番初めに一貫教育校として最初にパイロット校になったんだから、最初に一貫教育を実現していただきたい。これが我々の望みです。なぜならそれがまた日浦の魅力であり、そしてここに子どもたちが通ってくる大きなステップになるからです。どんどん一貫教育校が増えてきますと日浦小中学校の魅力が半減、3分の1減、4分の1減になって子どもたちの取り合いになってしまう、せっかく9年前に努力して残していただいた学校がどんどん衰退して今年も、非常に少ない。今日も学校で話してきたんですが、学校長も非常に困っている、子どもが減って複式になるんじゃないかとか我々保護者も地元の方も困る、そのためにせっかく9年間続いてきてパイロット校だテスト校だといっているながらそのまま残している、先日も教育委員会で文句言ってきたんですけど、これはちょっとどうかしてるんじゃないか、どこかでやめるんだったらやめる、やるんだったらやる、そのあたりをはっきりさせていただきたい。もうひとつ、バスの件出ましたけど、バス停の件で先日から問題になっているんですけど、これは市のみならず県の問題も絡んできますので、なかなか難しい問題もあると思いますけど、バス停の増設をお願いしたいと、これも何年も前からお願いしてることなんです。なぜなら子どもたちがここに通ってくるためにはバスを使う以外にないんですよ、そのバス停が市役所の第4別館から出てまして、一番近いルートで

ここに上がってきます。そのルート上にバス停をつくることは場所さえあれば可能であろうと、しかし、それを南のほうに増設する、西のほうに増設するとなりますと、時間的な問題、距離的な問題、運転手さんの人件費の問題等が絡んでなかなか難しいものがあるって断られるんですが、例えば、味酒地区、みどり小学校そして久枝、味生このあたりは正直言って子ども余りです。特に味酒の校長先生なんか数年前からもうマンション建たんでくれと、学校説明会でもおっしゃるくらい子ども余りの状態。向こうにバス停ができましたらここまでバスが来てくれるのかと、そして向こうから通いたい人、現に何人もいますよ、今まで何人もいました。しかし、あそこから第4別館あるいは古町まで行くにはやはり25分から30分は見なきゃいけないんです、往復で小1時間かかります。お父さんお母さんのお勤めが三番町、二番町、一番町のほうであればそのままのルートで行けるからさほど問題ありません。しかしもう一度三津浜のほうに帰る、久枝のほうに帰る、そしてなおかつお勤めが北条方面、今治方面の方だったら、そこからもう一度向こうのほうへ行かなければならない、これは会社に遅れますよね、子ども送っては行けないですよ、現実的に。これが大きなハードルになってるんです。せつかく日浦がいい、本当に日浦というところはいいところだ、こうやって地域の人が応援してくれるからこそなんです。で、学校もいい、少人数制でいい教育も受けられる、教育レベルも非常に高い、こういう状態のこの学校なのに、わかりながら来てもらえない、これは本当にバスの停留所1個だけの問題なんです。本当にそうなんです。これは昨日までこの問題でもめてましたんで。ぜひ検討していただきたい。

**【生涯学習政策課長】** 15年から全市を対象に児童募集しまして日浦のほうで小中一貫目指した、目指したといいますのは国の基準がありまして、小中一貫校するには特区といったものとする必要がございますので、先ほどお話しされた品川の場合はたぶんとられてると思うんですけど、ですから、一貫校目指すといった場合、当然校舎も引っ付いてないといけないと思いますし、そこらへんが例えば老朽化して建て替える必要がある時期であれば可能かもしれないんですけど、財政的な問題もありますし、特区の問題もありますので、小中一貫を目指したあり方というのは今後も検討していい姿に持っていきたいと思いますんで、そのあたりもう少し温かい目で見たいと思います。それとスクールバスの問題です

が、市教委を出発点に運行しております。基本的に市教委に来られるか、あるいは指定の停留所2カ所ほどございますが、そちらに来ていただいてバスに乗るのが前提になっています。運行ルートの停留所までも保護者に連れてきていただくのがスクールバスを使う上での前提になっているわけですが、そういった現在のシステムに同意していただいた方がそれをご利用いただけるというふうになっているんですよ、もっと全市的に広げたら、例えば衣山のほうとか三津のほうまでどうかというお話だと思うんですけど、一つはバスの運行時間が増えますと児童生徒に負担がかかる、特に低学年の児童に負担がかかると思うんですよ、それとバスの運行時間が長くなりますと事故に遭う確率もないとは言えないし、できるだけ短いルートで設定するというのが基本になってるんです。それとあと、時間も大幅にかかりますし、運行上の経費、予算の問題もありますし、来年に向けてはそういった形で計画されていないものですから、今現在として例えば三津浜地域へスクールバスを運行するというのは、申し訳ないですけど、予定には入っていないということでございます。一応、市の教育委員会に来ていただくか、何か所かの停留所に来ていただく方が対象になる、認めていただく方にスクールバスに乗っていただくというふうになっておりますので、よろしく願いしたいと思えます。

【女性】 その件なんですけど、今まではたぶん無理してでも来てくれてたんですけど、子どもの推移をみると、うちの息子が今4年生で、クラス10名維持できて非常に楽しい学校生活を送ってます。でも下の子になるともう7名です。その下の学年になるとという形でどんどん子どもの数が減ってます。下の子は4年生の息子たちの妹弟がそのまま上がってきている、たまたま同じ学年だったので上がってきているという事情があって、新しいところから来ているというのは2名だけです。このままで本当に複式にならないという約束があればですけど、何度教育委員会訪ねても、複式になると言われます。パイロット校で教育の動向を見ていたりとか、子どもたちの成長具合を見ているのに複式。正しく見れないのではないかという不安を親たちは持ってます。その大きなものをとらえるためにバスがあればって思うので、今までのような状態では減っていくのは確実なんです。今までの状態でも、どんどん来てくださってるのが現実であれば問題ないんですけど減ってるのが現実なので、例えばバスの問題でも、1号2号あるん

ですけど、今の1号バスの上がるルートだったら2号バスで上げてる子どもたちを十分拾っていけるルートで上がってます、1号バスは大きな道を通って。ただ2号バスの子どもたちを1号バスで拾ってあげて、2号バスを遠くにまわしてそこから始発にすれば時間もそんなにかからない、とかいろんな方法があるのに、今の状況で今のバス台数で今のバスのルートが基本でっていう形で全然前向きではないと思うので、もう少しいろんな意味でいろんな意見を聞いて広く考え直してもらい必要もあるんじゃないかと思います。

【市長】 わかりました。今のルートのことですか、またできることがあるんだったらやれば良いと思うんですよ。ちょっと経緯など調べさせていただいたらいと思います。

【男性】 昨日来3日間、同じことをお聞きしました。原理原則はよくわかりますし、原則を壊すということは将来的に問題を生むことも十分分かっておりますが、しかしこの現実を見ていただきたい。そして子どもたちのことを中心に考えていただいて、今申しましたように減ってることは間違いないんで、これではいかんだろうというのが現実なので、物理的なことを何か触ることによって改善することがあれば、ぜひ前向きに検討していただければと思います。よろしく願いします。

【生涯学習政策課長】 持ち帰らせていただきまして、そのあたり検討させていただきます。

【市長】 公共交通のことなんですけれど、皆さんにお伺いしたかったんですけど、伊予鉄バスは朝と夜の1往復なんですかね、ここ通ってるのは。せとうちバスは回数は多いんですけども、松山と今治を結ぶんで。前に地元の人から聞いたのは、石手のあたりですか。セブンスターあたりで、なんとなく推測するにたぶんせとうちバスからすると、停留所が増えるとそれだけ時間はかかってしまうから、停留所は増やすのはなかなか選んでくれないと思うんですよ。そこで日浦地区には、せとうちバスがとまるバス停って何カ所くらいあるんですか。日浦に、今4カ所ある、結構多いなって思ったんですけど、例えばごめんなさい、バス4カ所とまってそれぞれどんだけの利用者があるか知らないんですけど、4つともようけ利用者あるんですかね。あ、必ずとまるわけじゃなくていなければとまらないんですか。

【男性】 おったらとまってくれるけど、ほやから停留所はたくさんこさえとっていいと思うんですよ。

【市長】 あ、なるほど。

【男性】 おればとまったらいいんで、おらんかったら通過するでしょ。それで下の停留所、奥道後から子規記念博物館まで飛んでしまうと。そうするとここらの人は道後温泉ばかり行くわけじゃありませんので。

【市長】 時刻表通り動かんとクレームが来ますから、あんまり利用者がおらんかったら、例えば日浦地区で利用者がおらんかってすつと行った場合は、時間早く行き過ぎます、そういう場合はどっかで時間調整するとかってことはあるんですか。

【男性】 いや、そんなことないですね。

【市長】 なるほど。私は、4カ所それぞれにお客さんがいなくてもとまってから行ってるバスなのかと思ったんですよ。わかりました。いやそれだったら、よく分からないですけど4カ所のうちを例えば1カ所とか2カ所減らして、石手にとまってもらうのも、最終的にはせとうちバスが決めることですけども、そういう選択肢もあるのかなと思ってたんですけども。

【男性】 そういうふうにご利用価値がええようにしてくれたら、乗客も増えるんですよ。伊予鉄道との絡みもあるんじゃないかと思うんですけど。

【市長】 なるほど。そういうのもあるかもしれませんね。わかりました。ちょっと聞いてよかったです。

【司会】 予定の時間がまいりましたが、そろそろこのあたりで終わらせていただくこととなりますがよろしいでしょうか。それでは本日の感想を市長から申し上げます。

【市長】 どうも皆さん長時間にわたりましてありがとうございます。冒頭申し上げたように、こう次々手が挙がって、わし言いたかったことがあったのってことが、とりあえずは今手の具合からいくとそういうのはなかったようなので、よかったのかなって思っています。必ず聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないというモットーでありますので、今回持ち帰らせていただいて、そして1カ月を目安に皆さんのところにお答えをお返りする、それからまだ次の段階、それだったらまだこうやれるんじゃないかないうことで、前向きな意見を交わし

ながら、とにかく地域の魅力をより引き出していこう、課題を解決していった魅力をおぼしてっていうのがこのタウンミーティングの意味でありますので、そういうような作業が進めていければと思っております。どうぞ今後ともよろしくをお願いします。どうもありがとうございました。

(拍手)

—— 了 ——